

加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームワーキンググループ  
令和6年度 第1回ワーキンググループ 議事要旨

1 日時：2024年6月14日（金）午後2時から4時

2 場所：加茂市役所3階 301・302会議室

3 出席者（敬称略、順不同）

堀内大祐（加茂商工会議所 まちづくり委員会 委員）  
萩野正和（株式会社 connel 代表取締役）  
松井大輔（新潟大学工学部工学科 准教授）  
高澤 浩（第四北越銀行 加茂支店 支店長）  
水谷景子（第四北越銀行 加茂支店 主任）  
山口 翼（第四北越銀行 加茂支店 主任）  
小林 裕（加茂信用金庫 本店営業部 部長）  
夏目一寿（加茂信用金庫 総合企画部 課長）  
小林一隆（NST 新潟総合テレビ 情報制作本部 デジタルマーケティング部 部長）  
市川恭嗣（加茂市 CSO）  
中浜孝昭（新潟県三条地域振興局 地域整備部 計画専門員（総括））  
西村太佑（加茂青年会議所 理事長）  
佐藤卓之（新潟経営大学 地域連携課 課長（落合所長代理））  
青山 准（NTT 東日本 新潟支店 地域基盤ビジネス課長）  
永井麻美（NTT 東日本 新潟支店 まちづくりコーディネーター担当チーフ）

オブザーバー

宗村真斗（JR 東日本 新潟支社 企画総務部 経営戦略ユニット（地域交通・計画調整） 主任）  
本間達朗（JR 東日本 新潟支社 企画総務部 経営戦略ユニット（地域交通・計画調整） 主務）  
本保輝紀（Reterras 合同会社 代表）  
阿部 駿（加茂市観光協会 事務局長）  
鈴木智也（加茂市観光協会事務局）  
鈴木宏和（加茂市商工観光課観光係 係長）

事務局：加茂市政策推進課、(株)オリエンタルコンサルタンツ

## 4 議事

### (1) 開会

### (2) 今年度のスケジュールについて

事務局より、資料3をもとに、今年度のスケジュールについて説明した。

### (3) 未来ビジョンの構成案について

事務局より、資料4をもとに、未来ビジョンの全体構成及び本日の議論のポイントについて説明したのち、意見交換を行った。

**【事務局】** これまでの資料では、課題と実現に向けたポイントの関連が表せていなかったため、今回、課題と実現に向けたポイントの再整理を行っている。再整理された課題と実現に向けたポイントの関係性はこれでよいか。ご意見をいただきたい。

**【WGメンバー】** 課題の再整理では、賑わい、憩い・潤い、便利・快適という切り出し方になっており、令和5年度のまとめ時点ではあった歴史・文化の項目が反映されていないのではないかと感じた。ただ、よく確認してみると、実現に向けたポイントの「みどり」の項目に「歴史文化的な環境と調和した憩いや佇み環境の充実」とあり、「加茂川や加茂山公園でのイベントなどで活用されているが、通年的な賑わいが生まれていない」「加茂川、加茂山公園では、日常的に憩いや潤いを感じることができる滞在環境が不足」という課題とリンクしている。ここで1つ感じたのは、通年的な賑わいや滞在環境は、加茂川や加茂山公園だけでなく、まち全体に関連するのではないかとということ。この2つについて、加茂川と加茂山公園だけに限定せず、まちにも話を広げることができれば、令和5年度のまとめ時の歴史・文化という項目が再整理の中でも生きてくるのではないかと思った。そのような修正についてご検討いただきたい。

**【事務局】** おっしゃるとおり、まちの中にも、例えば水路や建物など、歴史・文化は色々ある。課題の表現の仕方含め、ご指摘を踏まえて再検討する。

**【WGメンバー】** 未来ビジョンの見せ方について確認したい。未来ビジョンを発信するにあたって、網羅性はもちろん重要であるが、情報量が多すぎると読みづらくなってしまう。最終的な見せ方として、現在のような粒度にするのか、具体的な取組との紐づけの中で情報量を絞るのか、具体的な取組は別として情報を落とすのか。資料4

p. 19 の相互関係は間違っていないと思うが、見せ方としてこれが適切なのかは皆さんにご意見をお聞きしたい。

**【事務局】**事務局では、本編と概要版の2部構成とすることを想定している。概要版はA3両面でリーフレットになるような情報量とし、誰もが理解できるよう重要なポイントをピックアップして記載することを考えている。その分、本編は、現状のような細かい粒度で書いてもよいのではという考えである。

**【WGメンバー】**例えば水戸市など、他都市の未来ビジョンを確認してみると、たしかに本編はかなり細かく書いてある。

**【事務局】**未来ビジョンの作成のご経験が豊富なWGメンバーより、一言いただきたい。

**【WGメンバー】**本日議論しなければならないのは、すでに決定している「まちまるごと、みちのえき」というビジョンを達成するにあたって、p. 19に再整理している課題が適切かどうかということだと思う。今後ビジョンを達成するために乗り越えていくハードルとして、p. 19に記載してある課題のうち、今取り組む必要はないと思われるものは消した方がよい。あるいは、取り組むべき課題が抜けていれば入れなければならない。まちの課題をすべてここに掲載する必要はなく、未来ビジョンに掲載する課題としてこれでよいのか確認していただきたい。

また、先ほど話題にあがっていた「歴史・文化」については、「賑わい」「憩い・潤い」「便利・快適」という3つと並列する事項ではないと考える。歴史・文化の観点から賑わいを捉えることもできるし、憩い・潤いを捉えることもできるし、便利・快適を捉えることもできる。つまり、「歴史・文化」「緑」「商業・業務」「交通」などの観点は、「賑わい」「潤い・憩い」「便利・快適」とは別軸である。「賑わい」「潤い・憩い」「便利・快適」について、「歴史・文化」や「緑」といった観点から見たときに、取り組むべき課題が抜けていないかを確認できればよいと思う。

**【WGメンバー】**資料4のp. 11にて、目指していく姿として、「潤い・休息機能」「地域の連携機能」「情報発信機能」が掲げられている。この観点から課題を整理した方がわかりやすいのではないと思うが、なぜ現在のように事象を軸とした整理をしているのかお聞きしたい。

**【事務局】**まず、「潤い・休息機能」は課題の整理における「憩い・潤い」と直接的に対応している。「地域の連携機能」は、コミュニティの形成を指しているが、コミ

ユニティとすると限定的であるため、より大きな括りとして「賑わい」と表現している。「情報発信機能」と「便利・快適」はあまりマッチしていないが、「情報発信」を課題として切り出すと単一的なテーマになりやすい。むしろ、地域の方の利便性や快適性といった観点で括った方が、「実現に向けたポイント」との関連が多くなるため、そのようにしている。

**【WGメンバー】**話を整理したい。「賑わい」「憩い・潤い」「便利・快適」というのは課題を切り出すときの視点である。この課題を、「まち」「みず」「みどり」「つながり」との掛け合わせで解決していくときに、テーマとして歴史・文化、交通、教育などの観点が入ってくる。掛け合わせで課題を解決した結果、加茂のまちなか全体で先ほどの3つの機能が発生する。つまり、課題を「まち」「みず」「みどり」「つながり」の手立てで解決できれば、まち全体で先ほどの機能が実現しているはずである。その関係性が正しく成り立っているかを整理しなければならない。また、先ほどのWGメンバーの質問はこの考え方で見れば解決するのではないか。

**【事務局】**WGメンバーからの補足説明にあった、テーマとして入ってくる観点に抜け漏れがないか皆様にご確認いただきたい。また、実現に向けたポイントの文章表現などについても、お気づきの点があればご指摘いただきたい。これが本日の意見交換の趣旨である。

**【WGメンバー】**情報が過多であるというWGメンバーのご意見を踏まえ、資料4p.19は1ページにまとめる必要があるのか。例えば、歴史・文化というテーマで1ページなど、観点ごとに切り分けてはどうか。現在は、WGメンバーのご説明にあったテーマとなる観点がp.19の図中に表示されていない。これをp.19に追加するとさらに情報量が多くなってしまうため、ページを分割してもよいのではないかと思った。

**【WGメンバー】**どの観点にあてはまるのかをテキストボックスの色で表すということも考えられる。皆さんにとってわかりやすい方でよいと思う。

**【WGメンバー】**色々な要素を入れると、まとめるのが難しくなる。

**【WGメンバー】**「賑わい」「憩い・潤い」「便利・快適」はとりあえずよしとして、現在の課題の整理は適当だと思われるか。決定すると、皆さんが解決すべきミッションはこれに限定されるということになる。本来は、課題を解決すれば「まちまるごと、みちのえき」が実現できるようにすべきだが、一方ですべてを掲載してしまうとすべてをやらなければならない。

【WG メンバー】 課題の再整理について、優先順位の付け方が適当か、優先すべき課題が掲載されているかという視点で議論すべきだと思う。

【WG メンバー】 すべてを掲載しようというわけではない。視点が入っているか入っていないかの確認ではなく、これを入れてほしいという意見がほしい。もっと取り組んだ方がよいと思われることがあれば、新たに項目を増やしていくのではなく、現在の書き方を変えて読み取れるようにするとよい。例えば現状の資料では、滞在環境の不足という課題が、加茂川と加茂山公園とのみ結び付けて書かれているが、まち全体の滞在環境について考えるのであれば、商店街についても書かなければならない。さらに、商店街の歴史や景観について考えた方がよいのであれば、それを具体的に書く必要がある。全般的に解決しなければならないというのであれば現在の表現でもよいが、粒度の調節も行った方がよい。

【WG メンバー】 この資料はどこ向けなのか。初見の人に加茂の課題が伝わればよいのか。

【WG メンバー】 今後、一緒に課題を解決していける人を募集することになる。

【WG メンバー】 各エリアの象徴的な課題がわかればよいということか。住んでいる人の視点で、課題に抜け漏れがないかが重要であるということ。

【WG メンバー】 例えば、若者がまちなかにいないという課題を解決したいのであれば、賑わいづくりのためにランチできる場所を増やしたいと書いてもよいし、あえて書く必要がないなら書かなくてもよい。

【WG メンバー】 当たり前すぎる課題や、ここで解決すべきでない課題は書かなくてよいのではないか。まちなかエリアの人口減少、高齢化とあるが、人口減少、高齢化はまちなかエリアに限った話ではない。それよりは、商店街に新しい店舗が入らず循環がないという課題の方が商店街としてはアプローチしやすい。そのような意識をもって課題について考えればよいのではないか。

【WG メンバー】 反論するわけではないが、本当にまちなかの居住人口を増やしたい、マンションを作りたい、住宅を作りたいということであれば、まちなかエリアの人口減少という言葉は残してもよいと思う。本当に解決したいこと、やりたいことは何かを考えたらうで、課題として何を設定するのかを考えなければならない。

【WGメンバー】「賑わい」というのは、住んでいる人の賑わいと外から来る人の賑わいのどちらを指しているのか。「便利・快適」は住んでいる人のことかと思うが、「賑わい」との違いはそういった捉え方でよいか。

【WGメンバー】細かく説明を書いていないからわかりづらいが、今この場で決めてもよいと思う。ただ、現時点では、単に「賑わい」か「便利・快適」かという視点で分けているだけであり、外から来る人と住んでいる人両方の視点が入っている。例えば、「空き店舗の増加」というのはたしかに賑わいとも関連するが、どちらかといえれば便利さ・快適さを実現したいがための課題という位置づけであるから、「便利・快適」に分類されている。

【WGメンバー】未来ビジョンは、国土交通省のエリアプラットフォームのもとで作られている。エリアプラットフォームとは、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成をはじめ、多様な人材の集積や様々な民間投資を惹きつけ、都市の魅力・国際競争力の向上を目的とした取組を支援するというものである。「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成のためには、まちなかの課題をすべて解決することを目的とする必要はないと考える。資料4p.11の「未来ビジョンの性格」として、「多様な主体による相互連携を促すことで、持続的に賑わいと活力あふれるまちづくりを推進」とあり、このための課題が掲載されていればそれで十分かと思う。ここで、気になった点が、「持続的」という言葉である。読み込んでいけばわかるのだが、市民に公表したとき、「持続的」という視点が伝わりづらいのではないかと感じた。「まちなかごと、みちのえき ～日常がとっておきになる～」というワードは、わかりやすく素晴らしいと思う。道の駅の機能と照らし合わせて整理しているのもわかりやすい。ただ、道の駅の基本機能のうちの1つである「防災機能」に触れられていないのが気になる。防災機能は「持続的」にもつながるところがあるので、防災という視点が入るとよりよいと思う。

【WGメンバー】防災の視点については、おっしゃるとおりだと思う。防災の機能は「未知の災害に対応する」と捉えられ、「みち」という表現と通ずるところもある。

【WGメンバー】たしかに、未来ビジョンの性格に照らすという意識は少し薄くなっていったかもしれない。「多様な主体による相互連携」「持続的」といった性格を考えたとき、加茂のエリアには多様な人たちが来ているものの、相互連携を促せるような仕組みがない。「回遊性」「留まる」といった表現から想起はされるものの、「相互連携を促す」ことに直接的に踏み込んだ言及はない。

【WGメンバー】相互連携は、促す仕組みを作るというよりは、未来ビジョンの取組を実施しているうちに気が付いたら連携していたということによいと思う。また、具体的な取組を積み重ねることが、加茂のまちの情報発信機能の充実そのものになると思う。取組を重ねることでSNSや口コミを通じて次から次へとつながり続けることで賑わいにもつながる。まずは取組を始めましょうということによいと思う。

【WGメンバー】情報発信の議論が出ているが、情報発信も相互連携も、実現に向けたポイントに並列するものではなく、全体にかかるものであり、資料4の8章「未来ビジョンの実現に向けて」に書かれるべきことだと思う。他の将来ビジョンや基本計画でも、そういった制度の話などは最後の部分に書かれることが多く、その位置づけによいと思う。課題の再整理の部分では、やること、タスクをしっかりと整理した方がよい。

【事務局】防災という視点は重要な意見として受け止めた。あわせて、「情報発信機能」という道の駅の機能から振り返ってみると、課題の再整理において、量的にも質的にも不十分な部分があると感じた。改めて、課題の見つめ直しに生かしたい。

#### (4) 現在実施中の具体的な取組の整理について

事務局より、資料5について説明したのち、情報交換を行った。

【事務局】次回以降、実現に向けたポイントと具体的な取組の照らし合わせを行うことを想定している。今後実施予定の取組があれば教えていただきたい。加えて、未来ビジョンの実現につながるような新しい取組についてご意見があれば共有いただきたい。そのほか、資料について間違っている点や追加すべき点などお気づきのことがあれば教えていただきたい。例えば、リス園ではひまわりの種をガチャガチャで引いてリスに餌やりをできるようになった。

【WGメンバー】つながりのところで大学の取組が書かれているが、中学校も色々な取組をしていると思う。意図的に掲載していないのか。

【事務局】単に拾えていないものが多くあるのでご教示いただきたい。

【WG メンバー】加茂中学校が課外授業として、半年かけて地域ボランティアを行っている。plat KAMON ぷらかもでは、小学生を対象にした地域を学ぶ取組を年間5回ほど実施している。また、新潟大学の樋口先生の「社会開放演習」の講義では、大学生が加茂市をフィールドに地域の課題解決に取り組んでいる。

【WG メンバー】リス園のひまわりの種にも、学生が関わっている。また、加茂川清掃や夏祭りにも中学生が関わっている。

【WG メンバー】それぞれの団体に追記していただいた方がよいのではないか。

【WG メンバー】この資料では、加茂市外の人が見たとき、それぞれの取組の主催団体がどこかわからない。支援組織の欄に「支援」と書いてあるが、意味がよくわからないと思う。表の見方やマークの意味を整理した方がよい。

【WG メンバー】「取り組む主体」として整理してあるが、本当の意味での主催者がわからない。興味を持った外部団体がどこにアプローチしたらいいかわかるようにするべきである。

【事務局】凡例の追加や整理の仕方を修正したうえで改めて皆様に共有する。お持ちの情報を追記いただきたい。また、整理の仕方は、情報をお寄せいただいたのちに再度検討する。

【WG メンバー】今後、取組が集まってくるなかで、それぞれの取組が根源的にどの課題を解決するのかを整理することになる。例えば、水のエリアの取組を見てみると、「河川敷を水に親しむ公園として整備（加茂川河川敷緑地）」の取組は、「加茂川、加茂山公園では、日常的に憩いや潤いを感じることができる滞在環境が不足」という課題を解決するものだと思う。「管理用通路（舗装部）のウォーキングコース利用」の取組は、「車の混雑がなく、誰もが安心して歩ける環境があるものの、それが活かされていない」という課題を解決するものだと思う。しかし、水のエリアの取組によって解決されている課題は現時点ではその2つのみである。今後、皆さまからの情報が集まれば、課題を解決するために足りていない取組が見えてくる。

【事務局】資料5では表示していないが、ゾーンや取組とともに、課題や実現に向けたポイントとの関連も整理していた。本日は最もシンプルな形でお配りしている。お話を聞きながら、取組が課題をどう解決するかという観点で見た方がわかりやすいと

感じたため、皆様がわかりやすいよう表をまとめ直したい。A3横2枚の表になるイメージである。

**【事務局】**資料4p.19は、マトリクス化したことにより、逆に混乱を招いてしまい申し訳なかった。このマトリクスはあくまで議論のために作成したものであるため、次回の資料では、課題と実現に向けたポイントをそれぞれわかりやすく表現したい。

#### (5) 今年度のイベント情報について

事務局より、資料6について説明したのち、情報交換を行った。

**【事務局】**事務局が把握しきれていないイベントもあるかと思うので、掲載されていないイベントがあれば教えていただきたい。また、今後も何か情報があれば随時メールで事務局に共有いただければと思う。

**【オブザーバー】**今は詳細な情報をお出しできないが、8月以降にイベントの開催を予定している。

**【オブザーバー】**加茂市のふるさと納税を請け負っている。ふるさと納税は返礼品が目立つが、地域の課題を全国に発信して資金を集め、課題を解決するのが本質である。今回は未来ビジョンの話だったが、具体的な手法や資金調達の面からふるさと納税は地域課題解決の有効な手段であると考えている。

**【事務局】**本取組においても財源の課題があるため、今回オブザーバーで参加していただいている。

#### (6) 事務連絡

**【事務局】**本日の議題は以上である。全体を通してご意見やご質問、ご要望はあるか。

**【オブザーバー】**課題の再整理は、本日の議論を踏まえて変更するのか。

**【事務局】**変更したうえで、メールベースで皆様にご意見を伺いたいと考えている。

**【オブザーバー】**実現に向けたポイントについては、確定したものと考えてよいのか。

**【事務局】** 基本的に、大きく変えることはない。課題とあわせて文言を調整する可能性はある。

**【オブザーバー】** 色々なところを修正するのではなく、どこかは確定した方がよい。実現に向けたポイントは前からの議論を受けて決まったものかと思うので、それでよいと思う。

**【事務局】** 次回のワーキンググループは、7/11(木) 14時開会を予定している。会場は、本日より加茂市役所3階 301・302 会議室である。本日の議論を受けて修正した資料を皆様にお示しするとともに、具体的な取組について議論するワークのような場を設けることを考えている。

以 上